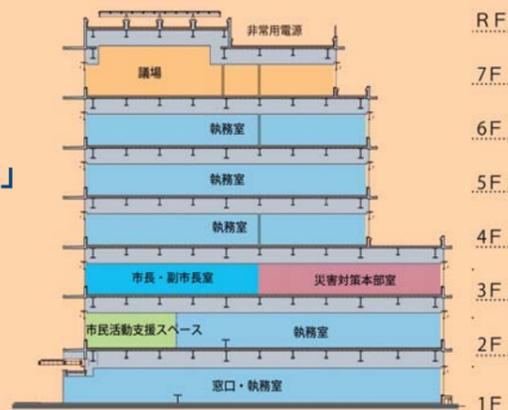


特色

4つの設計コンセプト

- すべての人にやさしい「安心・安全な庁舎」
- 市民に親しまれる「開かれた庁舎」
- 機能的で経済的な「コンパクトな庁舎」
- 環境にやさしい「エコな庁舎」



7F 議場
議場にも多くの県産・市産木材を使用し、温かな空間にする予定とのことです。



6F 執務室
自然採光を取り入れ、環境にやさしくエコを心掛けた庁舎になります。



5F 執務室
特殊な窓ガラスを使用することにより、夏は涼しく・冬は暖かい構造になります。



4F 執務室
照明設備に昼光センサーを組み込むなど、エネルギー消費の無駄を減らす設計です。



3F 執務室・災害対策本部
構造材としてCLTパネルを採用しています。
▲CLTパネル



2F 市民活動支援スペース
市民の方が、自治体活動に使用できるスペースが用意されています。



1F 市民窓口フロア
各課が見渡せるように、壁をできるだけなくし、来庁者にわかりやすい空間にしているとのことです。

現在、工事は基礎工事から鉄骨工事が完了。全行程のおよそ70%まで進んでおり、今日まで予定の工事は無事に進んでいるそうです。すでに新庁舎北側には外壁も見えています。自家発電も備えており、災害時でも200人程度の職員が7日間活動できます。燃えにくく壊れない、と災害に強い新庁舎は途中、設備などの改修は必要ですが今後100年大丈夫とのことです。



■香南市役所新庁舎完成イメージ



見えない内部が、今だから見える



免震層／免震装置
新庁舎に設置されている免震装置は大きく分けて4種類。いずれも最新式の免震装置で、南海トラフ地震にも対応できる想定です。



地下／免震層
地下は一面コンクリートに覆われた空間が広がり、鉄骨柱と梁があり、免震装置が設置されています。



免震層／浮いている階段
免震層への階段は地震の揺れに対応するために、地面に固定されておらず浮いています。



耐火被覆で覆われている鉄骨
むき出しになった鉄骨は灰色の耐火被覆で覆われています。この作業は、取材時も行われていました。

■秋空にそびえ立つ、建設中の新庁舎が大きく見えます。今、どれくらい庁舎ができていくか知りたいと思いき、編集委員で取材に行きました。工事日の午前中、住宅管財課別役さん、飛鳥建設森尾さんに案内してもらいました。
広報編集委員 担当／島村立法

工事経過

平成30年 5月～8月	解体・土工事
10月	基礎工事開始
平成31年 1月	免震装置設置
3月	コンクリート・鉄骨工事開始 タワークレーン設置
令和元年 7月	鉄骨工事完了
8月	外壁工事開始
9月	外装・内装工事



100年大丈夫。新庁舎の工事に潜入!!